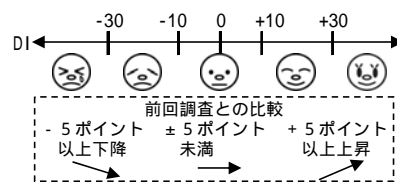


## 消費マインド、大きく冷え込む

### 熊本の今後半年間の消費予報【要約】

消費予報の指標としている「景気」、「暮らし向き」、「収入」、「支出意欲」の今後半年間の“見通し”をみると、「景気」見通しDIは、前回(平成 19 年 11 月実施)を 39.8 ポイント下回る 43.4 となっており、調査開始(平成 11 年 5 月)以来 2 番目のマイナス水準となった。また、「暮らし向き」見通しDIでは、前回は 14.8 ポイント下回る 51.4、「支出意欲」見通しDIでは、13.3 ポイント下回る 46.8 であった。いずれも調査開始以来最低の水準となっており、大変厳しい見通しとなっている。なお、「収入」見通しDIも前回は 2.3 ポイント下回る 12.4 となっており、わずかながら下降局面を続けている。

原油・原材料価格高騰による企業経営への圧迫が続いており、景気の先行不安や物価上昇の影響を受け、生活者の消費マインドは、大きく冷え込みをみせる結果となった。



### 1 消費予報の読み方

本調査では、消費マインドに影響する『景気』と『暮らし向き』と『支出意欲(支出の引き締め)』に対する意識、実際の消費に関わる『収入』の増減の、4つの項目について今後半年の見通しを質問している。数値(DI)は、「良くなる(増えそう、緩める)」と回答した人の割合(%)から、「悪くなる(減りそう、引き締める)」と回答した人の割合(%)を引いて算出した。4つの項目と『支出』から総合的に判断し、熊本の消費の予報を試みた。

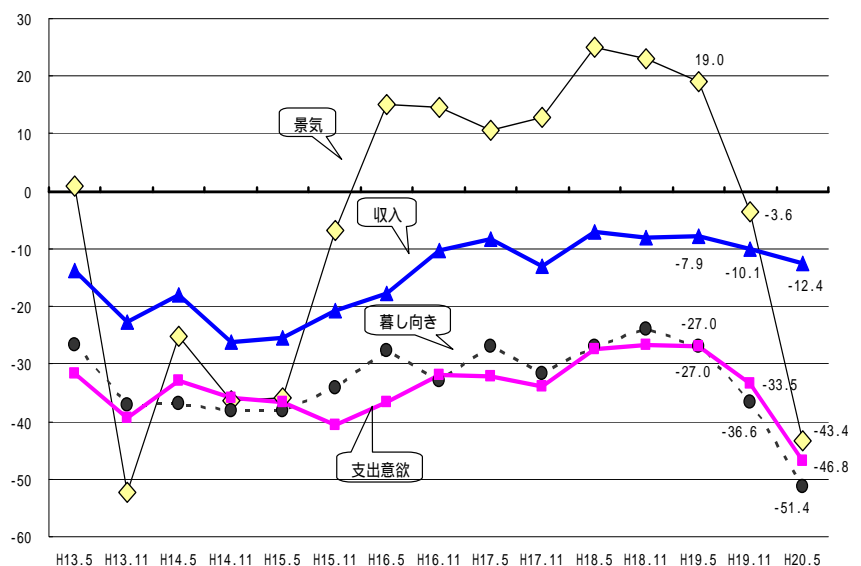
### 【調査概要】

対象：熊本市在住の 20 代から 60 代の女性モニター 500 人  
 有効回答数：444 人  
 調査時期：平成 20 年 5 月 16 日  
 ~ 5 月 28 日

### 回答者の属性

年齢	実数	%
20代	79	17.8
30代	90	20.3
40代	94	21.2
50代	92	20.7
60代	89	20.0
合計	444	100.0

### 【今後の見通しDIの推移】



## 1. 景気の見通し

今後半年間の景気見通しD Iは、前回は39.8ポイント下回る43.4となっており、平成13年11月調査時に次ぐ2番目のマイナス水準となった。年代別にみると、すべての年代で大幅に下降しており、前回唯一のプラス水準だった20代も39.2ポイント下回る32.1となっている。特に、60代では下げ幅が大きく、前回は50.3ポイントも下回る51.3となっており、50～60代でかなり厳しい見通しとなっている（図表1, 2）。

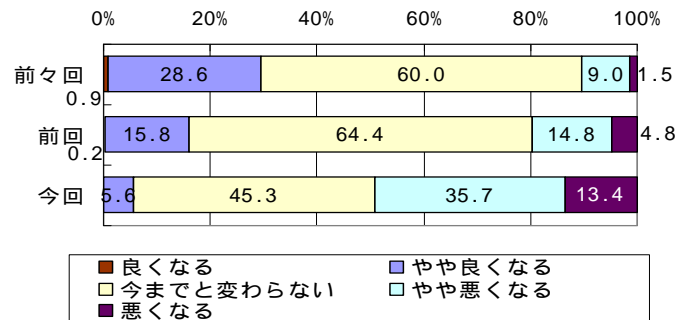
また、国内企業に元気はあると思うかとの問いに対しては、前回・前々回と比較すると「元気がなくなった」との回答が増え、前回の2.5%より5.9ポイント上回る8.4%となっており、「少し元気がなくなった」との回答と合わせると29.2%に上っている（図表3）。

図表1. 景気の見通しD I

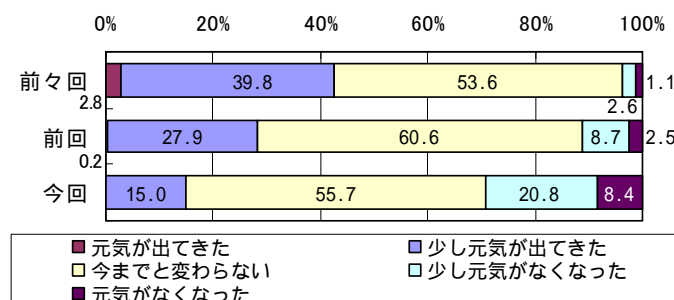
D I=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (H20.5)		前回 (H19.11)	前々回 (H19.5)
		前回比		
全体	43.4	-39.8	3.6	19.0
20代	32.1	-39.2	7.1	39.7
30代	34.8	-32.8	2.0	13.8
40代	43.3	-43.3	0.0	15.0
50代	55.8	-37.7	18.1	10.9
60代	51.3	-50.3	1.0	23.9

図表2. 今後半年間の景気の見通し



図表3. 国内企業に元気はあると思うか？



## 2. 暮らし向きの見通し


暮らし向きの見通しDIは、前回は14.8ポイント下回る51.4で、調査開始以来最低の水準となり、ガソリン価格の高騰や食品・日用品の相次ぐ値上げなどを受け、かなり厳しい見通しとなっている。年代別にみると、すべての年代で大幅に下降しており、中でも40代が最も厳しく、20.3ポイント下回る61.1となっている(図表4,5)。

また、物価上昇が家計に与える影響についてたずねたところ、「大きくなった」、「やや大きくなった」との回答が前々回・前回と比較して大幅に増えている。「大きくなった」との回答では、前回の12.2%を18.6ポイント上回る30.8%となっており、「やや大きくなった」との回答と合わせると82.8%にも上っている(図表6)。

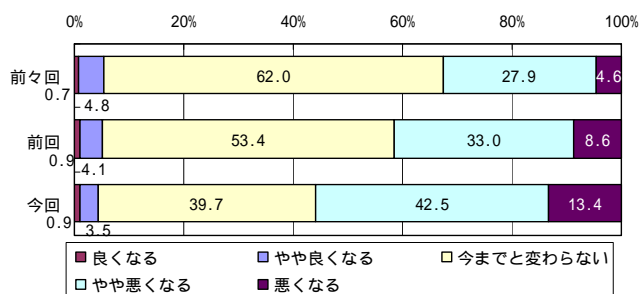
更に、税金や社会保険などの社会的負担についてたずねたところ、「重くなった」との回答が、前回より5.6ポイント上回る31.3%となっており、「やや重くなった」との回答と合わせると78.1%にも上っている(図表7)。

図表4. 暮らし向きの見通しDI

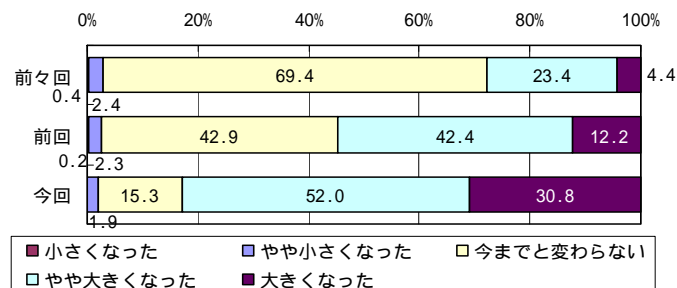
DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (H20.5)		前回 (H19.11)	前々回 (H19.5)
	前回比			
全体	51.4	-14.8	36.6	27.0
20代	38.5	-13.6	24.9	4.8
30代	49.4	-19.5	29.9	20.2
40代	61.1	-20.3	40.8	37.6
50代	54.0	-15.1	38.9	36.6
60代	53.2	-9.7	43.5	29.3

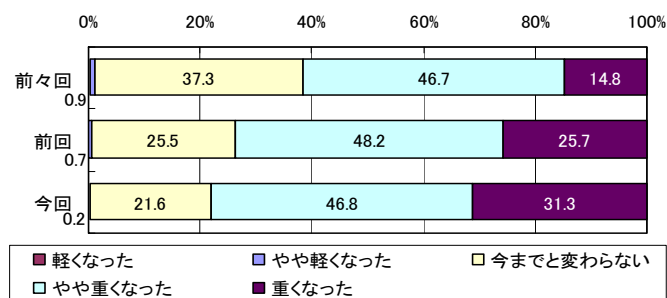
図表5. 今後の暮らし向きの見通し



図表6. 物価上昇が家計に与える影響



図表7．税金や社会保険などの社会的負担



### 3．収入の見通し

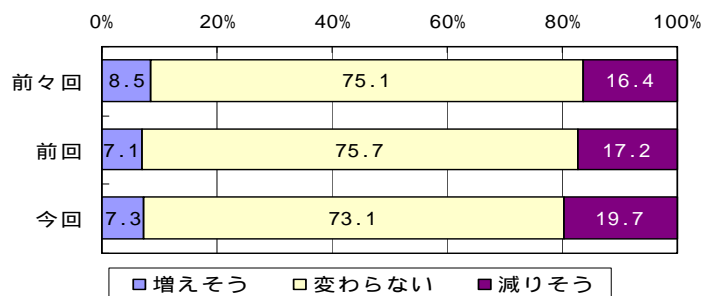
今後半年間の収入見通しD Iは、前回は2.3ポイント下回る12.4となっており、下降局面が続いている。年代別にみると、前回までプラス水準だった20代と30代で、それぞれ前回は8.5ポイント下回る1.3、9.9ポイント下回る7.9となっており、これによりすべての年代でマイナス水準となった。50代は、前回の25.8より6.3ポイント持ち直しているものの19.5と依然低い水準となっている（図表8,9）。

図表8．収入の見通しD I

D I=「増えそう」 - 「減りそう」

→ (顔)	今回		前回 (H19.11)	前々回 (H19.5)
	(H20.5)	前回比		
全体	12.4	-2.3	10.1	7.9
20代	1.3	-8.5	7.2	14.3
30代	7.9	-9.9	2.0	2.7
40代	12.2	-5.9	6.3	8.6
50代	19.5	6.3	25.8	18.8
60代	22.5	-1.9	20.6	22.8

図表9．今後半年間の収入の見通し



#### 4. 支出意欲の見通し

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲見通しDIは、前回は13.3ポイント下回る46.8となっており、調査開始以来最低の水準となった。年代別では、20代で30.2ポイントも下回る48.1となったほか、各年代でかなりの引き締め傾向がみられる（図表10.11）。

また、買物の仕方についてたずねたところ、「信頼やサービスなど店の質」を「重視する」との回答が、前回は7.9ポイント上回る35.6%となっており、中国ギョーザ問題や食品偽装問題などを受け、安全な食品はそれなりに値段が高いことも踏まえ、見極めながら購入しているようである（図表12）。

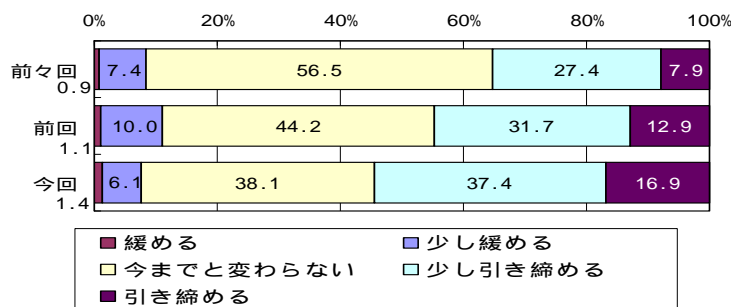
自由回答では、「食品などが値上がりしているので、無駄な物は買わないようにしたい」、「将来が不安なので貯蓄しておきたい」といった意見がみられ、慎重で堅実な消費態度がうかがえる。

図表10. 支出意欲の見通しDI

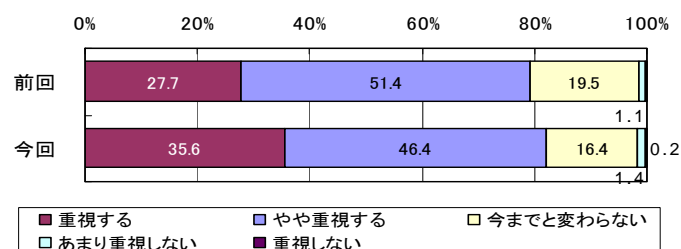
DI=(「緩める」+「少し緩める」)-(「少し引き締める」+「引き締める」)

	今回 (H20.5)		前回 (H19.11)	前々回 (H19.5)
	DI	前回比		
全体	46.8	-13.3	33.5	27.0
20代	48.1	-30.2	17.9	34.8
30代	40.4	-6.7	33.7	27.5
40代	55.1	-11.0	44.1	29.3
50代	56.3	-15.4	40.9	27.7
60代	35.0	-9.7	25.3	17.4

図表11. 支出意欲の見通し



図表12. 信頼やサービスなど店の質（買い物の仕方）



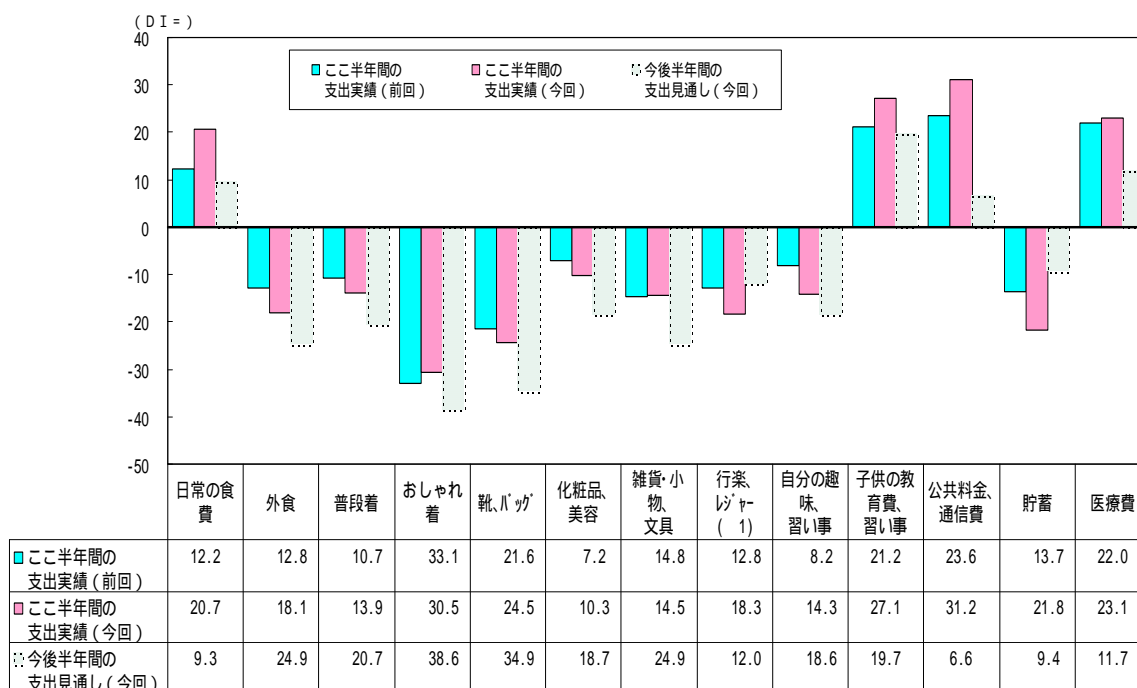
## 5. 日常的支出

ここ半年間の日常的な支出実績D Iは、「日常の食費」が前回の支出実績D Iを8.5ポイント上回る+20.7、「公共料金・通信費」が7.6ポイント上回る+31.2となっており、食品やガス・電気の値上げにより支出が増えていることがうかがえる(図表13)。その他に「子供の教育費・習い事」、「医療費」の項目でも前回は上回っている。しかしながら、全体的には前回の支出実績D Iを下回る傾向となっており、日常必需品以外の出費は出来るだけ抑える様子が見られる。また、「貯蓄」では前回の13.7を8.1ポイント下回る21.8となっており、急な物価上昇などにより思うように貯蓄できなかった、または貯蓄を取り崩して当面の生活費に充当した、といったことも考えられる。

今後半年間の日常的な支出の見通しD Iは、夏休みを控えていることもあり、「行楽、レジャー」で、ここ半年間の支出実績の18.3を6.3ポイント上回る12.0となっているものの、「外食」や「おしゃれ着」、「靴、バッグ」などへの出費は今後さらに引き締める傾向が続くようである。

図表13. 日常的な支出品目のここ半年間の支出実績D Iと今後半年間の支出見通しD I

(支出D I = 支出が増えた - 支出が減った、支出見通しD I = 支出を増やす・増えそう - 支出を減らす・減りそう)



\* 1 「行楽、レジャー」は、旅行(国内・海外)を除く

## 6. 非日常的支出

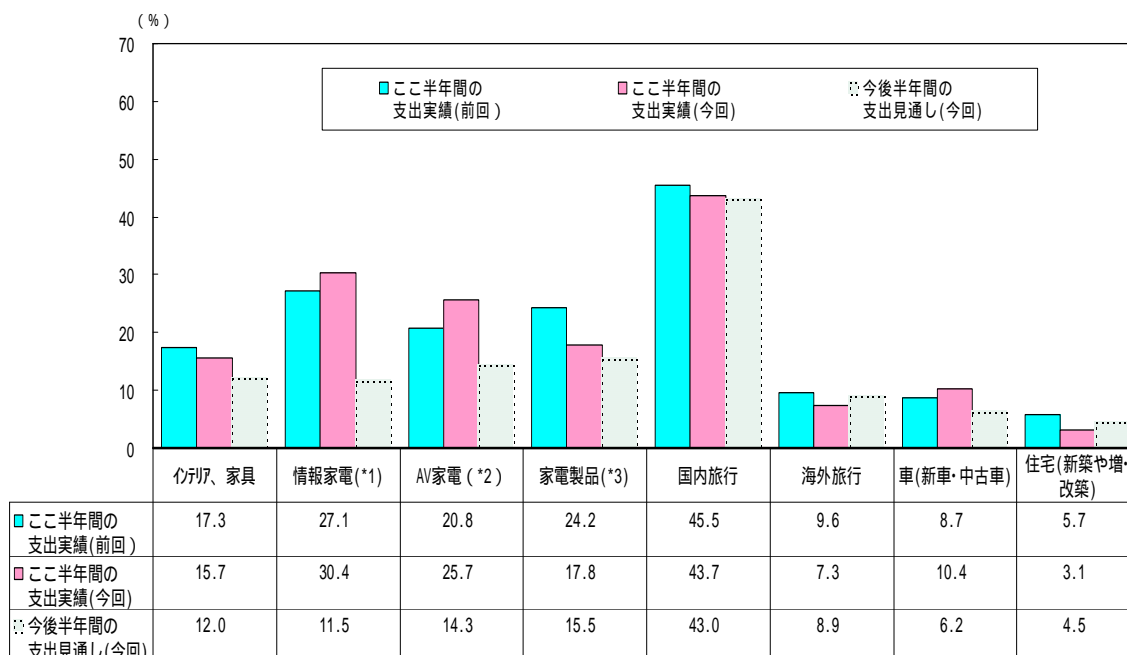
非日常的な支出をみると、今回の支出実績は、「国内旅行」の割合が43.7%と全項目の中で最も高いものの、前回の支出実績の45.5%を1.8ポイント下回る結果となっている(図表14)。

一方、「情報家電」の支出実績は前回の支出実績の27.1%を3.3ポイント上回る30.4%となっており、その購入内容は携帯電話が最も多い。おそらく、機能を追加した新機種への電話本体の買い替えや、キャリア間の通話料金プラン競争による割安な料金プランへのキャリア替えが進んだものと思われる。また、「AV家電」の支出実績も前回の支出実績の20.8%を4.9ポイント上回る25.7%となっており、その購入内容は地デジ対応テレビやデジタルカメラが多くなっている。更に、「車」は前回実績の8.7%を1.7ポイント上回る10.4%となっており、これは自動車税軽減やガソリン節約のため軽自動車や低燃費車への買い替えも含まれているようである。

今後半年間の支出見通しについては、全体的に抑える傾向がみられ、特に「情報家電」や「AV家電」等は、今回の支出実績を大きく下回る見通しとなっている。

図表14. 非日常的な支出品目のここ半年間の支出実績と今後半年間の支出見通し

(支出実績 = ここ半年間で購入した割合、支出見通し = 今後半年間で購入計画ありの割合)



\*1「情報家電」とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど

\*2「AV家電」とは、テレビやDVDレコーダー、デジタルカメラやビデオカメラなど

\*3「家電製品」とは、冷蔵庫や洗濯機、食洗機やエアコンなど、情報家電やAV家電以外の電気製品

## 7. 生活者の節約術

今回の調査結果では、収入がさほど上がらない中での物価上昇や社会的負担増により、消費マインドはかなり冷え込んでいることが明らかとなった。「我が家(私)の節約術」について尋ねたところ、多くの実践例が寄せられており、家計のやりくりは切実さを増しているようである(図表15)。

なかでも、光熱費を節約するために、オール電化にして電気料金の割引時間帯である深夜に家事をするという意見は数多くみられた。それに関連して、部屋干し用の洗濯洗剤や低騒音家電などの商品への関心は高い傾向にあるものと思われる。また、クールビズが定着しつつあることもあり、家庭内においても、涼感下着や冷却ジェルパッド敷布団等の商品で暑さを凌ぎ、冷房費を抑える様子も見受けられる。

食生活面では、相次ぐ食品偽装問題などを背景に、毎日の食事を家庭菜園など自家製のものを使い手作りするという意見も多い。

一方で、どうせやるのであれば楽しみながら節約に取り組みたいという姿勢も見られる。家族で家計簿記入や健康チェックをしたり、有料レジャー施設等への外出を控え、無料で楽しめるイベントや施設を上手に利用したりする様子が見られる。また、ガソリン代節約のため自宅で過ごす傾向も増えており、通信販売の利用や自宅で楽しめる娯楽への関心も今後さらに高まるであろう。

いずれにしても、その消費行動には、節約や安全のためといった生活防衛色が色濃く出ている。

図表15. 「我が家(私)の節約術」 (一部抜粋)

<b>水道代の節約</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・水道の蛇口を全開にしない</li><li>・風呂の残り湯や米のとぎ汁を洗濯や植木の水やりに再利用する</li></ul>	<b>衣服・装飾品代の節約</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・バーゲンや安い店でしか買わない</li><li>・リサイクルショップを活用する</li></ul>
<b>電気代の節約</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・外出時は電化製品のコンセントを抜く</li><li>・電気料金の割引時間帯に家事をする</li><li>・涼感下着類で調節し、冷房を入れない</li></ul>	<b>ガソリン代の節約</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ブレーキなど運転の仕方を工夫する</li><li>・自転車や公共交通機関を利用する</li></ul>
<b>食費の節約</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・スーパーへは割引のある時間帯に行く</li><li>・野菜などは家庭菜園で育てる</li><li>・外食や友人との付き合いを減らす</li></ul>	<b>その他</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・家計簿をつける</li><li>・ポイントを付与する店の利用や、クレジット払いでポイントを貯める</li><li>・健康に気を配り、病気をしない</li></ul>